

令和元年度の学校評価

担当分掌	重点目標	重点項目	評価	評価結果と課題
本年度の重点目標	1. 全校生徒の学力向上 2. 進路指導とキャリア教育・インターンシップの促進 3. 生徒の自己実現と生活意識向上 4. 姉妹校への入学者増 5. 授業改革と教員の授業力向上 6. 部活動の活性化と強化及び安全管理と事故防止 7. 校内環境の整備 8. いじめ防止 9. 教員の生徒募集に関する意識の向上 10. 教職員の業務改善 11. 地域との連携・交流の推進 12. 生徒・保護者との信頼関係構築			
教務	・学力向上	基礎学力指導の実施	A	基礎学力向上へ向けて、基礎学力小テストの実施や実力試験(基礎力診断テスト/到達度テスト)の事前事後指導などができた。年度末の突然の休校により英単語コンクールと漢字コンクールが中止となったが、来年度は実施したい。 教職員の研修として、年2回の教員研修会を実施し、教科ごとの情報共有や指導技術の向上や指導内容の最新化などの取り組みができた。来年度は授業方法・内容等の共有と確認、全体改善を目指す。 保護者対象公開授業は今年度も年2回実施ができた。来年度も5月と11月の2回実施し、保護者に授業を参観して頂く機会を増やし、生徒・保護者・教員が連携してより良い授業・教育環境の改善を目指す。 授業アンケートの実施、教務内規の検討、手引等文書の充実については、今年度は詳細についての取り組みができなかった。 来年度はスタディサプリが全学年での導入となるので、スタディサプリを軸としたICT教育と授業アンケートなどのICT活用を促進したい。
		実力試験の有効活用	A	
		学習習慣の定着	B	
	・授業改善の取り組み	研究授業・授業アンケートの実施	B	
		保護者対象公開授業の実施	A	
		校内研修の実施	A	
	・業務の効率化	教科会の活性化	B	
		教務内規等の検討・策定	C	
		手引等文書類の充実	C	
情報管理	・学内コンピュータネットワークの運営・保守・管理を行う	ネットワークの保守・管理	A	
		サーバ類の保守・管理	A	
		情報機器の保守・管理	A	
	・情報機器の活用のためのガイドライン・マニュアルの整備を行う	各種ガイドライン・マニュアルの作成、整備	B	
		一斉配信メールの活用	A	
	・既存のシステムの活用および更新の検討を行う	ホームページの活用	A	
		新規システムの検討・更新	B	
総務	・学習成果につながる教室環境の整備	設備・施設の管理・営繕および正しい利用法の啓発	A	名古屋市が策定した「一般廃棄物処理基本計画」において一般廃棄物の減量とリサイクルの方針が示され業者による回収も厳しくなった。本校でも改善策を講じてはいるが、教員・生徒とも今以上の環境に対する理解と協力が必要である。 特別教室等の鍵の利用や備品の管理について、意識の向上が不可欠である。防犯や個人情報に対する知識を高めるとともにわかりやすい管理の仕組み作りも必要となろう。 式典等の行事については学校全体の取り組みとして教職員全体が準備から終了まで積極的に関わってもらえるよう、報告・連絡・相談などを密にしていく。 避難訓練に関しては、より現実的な内容にするため、外部の組織や団体等の協力を得ることも検討する。
		教室内の学習環境や設備の充実	B	
		環境美化の徹底	A	
	・安心安全な校内施設の利用啓発	適切な備品・消耗品の調達と修繕	A	
		経費削減(省エネ・節約)	A	
	・経費削減の啓発および具体的な実施	式典(入学式・卒業式など)の計画・実施	B	
		次年度行事予定の見直し・調整	A	
		避難訓練の計画・実施	A	
進路指導	・進学への意識付け ・進路未定者の減少 ・姉妹校への入学者増 ・正社員雇用内定率の向上	各学年に適した進路ガイダンスの実施	B	
		『進路の手引き』など内部・外部の情報誌を有効活用	A	
		保護者対象進路説明会や保護者会などで家庭への進路情報の提供および姉妹校入学の特典の周知	B	
		職業観を高めるためのインターンシップの実施	A	
		進路を考える材料としての適性診断の複数回実施	B	
		キャリア教育の推進	B	
		入試改革に向けた情報の提供	B	
		変化する進路情報の提供	B	
各学年一人当たりの担任による複数回の個人面談の実施	A			

担当分掌	重点目標	重点項目	評価	評価結果と課題
生徒会	・行事の円滑な運用および主体的参加者の増加	生徒が主役になれる学校を目指し、各行事の計画的運用を図る	A	生徒会に立候補し、役員を担当する生徒は、年々実に真面目に意欲的に生徒会活動に取り組むようになってきた。反面、まだまだ受け身の生徒も多い印象を受けた。しかし、文化祭・三送会においては、生徒会役員が主体となり、徐々にではあるが作り出すことができるようになってきている。ただ、コロナウィルスの影響を受け様々なボランティア等が中止になってしまったことは、残念であった。研修生も少しずつではあるが増えてきているため、次年度も生徒会活動に関わる生徒の育成に更に力を入れて、行事の活性化更には学校の活性化に繋げていきたい。
		各行事で活躍する委員会の拡大と学校行事への定着を図り、より多くの生徒が学校行事に主体的に参加することを目指す	B	
	・生徒会活動と各委員会の活性化	生徒会を中心とした、生徒による自治組織の運営を目指す	B	
		生徒会新聞の隔月発行による生徒会活動の周知徹底と、生徒会研修生・実行委員の積極的育成	A	
	・部活の活性化	生徒会の収入と支出のバランスを整え、部活動への計画的予算投入と、持続可能な予算計画を立てる	B	
	・ボランティア活動の推進	地域の催し(できな祭・こどものまち等)への参加 ボランティア紹介および申請の指導	B	
		校外美化清掃(美化委員と連携)および募金活動の計画実行	A	
生活指導	・常に菊華高等学校生であることを自覚し、行動できる生徒を育てる	挨拶の励行、ルールへの遵守、基本的な生活習慣、安全指導等、生徒の社会性の向上を図る	B	生徒の交通マナー・防犯意識等を啓発するために、外部の関係機関と連携した講演会などの活動を積極的に取り入れた。命を大切にすることに関する教育に関して1年生を対象とした講演会を行った。今後も、校内外で他者への思いやりを持った行動を心掛けるように指導を続ける。
	・交通安全指導の充実		B	
健康管理	・日常の健康観察	保健室の利用状況の把握	A	保健室に来室した生徒は「病気の記録」「けがの記録」に記入を行う、その内容により保健日誌に記入をして情報を公開している。カウンセラーの先生と情報を共有する事により、生徒の生命の安全と、プライバシーの配慮をして、冷静な判断が下せるように努めたい。
		カウンセラーの活用	A	
渉外	・募集定員の入学者数(特に推薦受験者数)確保	各学科・コースの入学者数増加および推薦受験者数の大幅増加	B	入学者数の減少がかなりあった。その要因としては、守山区・春日井市を中心とした、近隣協力校からの受験者数が厳しかったためである。やはり、一般入試の入学者数や歩留まりが厳しくなり期待できないため、募集定員を確保するには、推薦受験者数の増加が必要となる。そのためには、近隣協力校を中心に受験者数につながる、行事や教育内容、学科・コースのPR活動が必要である。昨年度より特別専願入試を実施したことにより、昨年度よりも多少ではあるが受験者数が増加したため、今後も継続して実施していきたい。
	・学校紹介リーフレット及び学校案内パンフレット等、募集アイテムの充実	認知度を高めるための学校紹介リーフレットと学校案内パンフレット等の充実および活用(各学科・コースのPR強化)	A	
	・体験会・説明会の充実	体験会・説明会等の行事への参加者数増加および満足度の上昇	A	
いじめ防止対策	・日常の観察	アンテナを高く持ち問題を感じたら、学年主任へ報告。学年で問題を精査し、必要であれば、いじめ防止対策委員会へ報告	A	今年度は、各学年とも積極的な取り組みで、いじめに発展する前に委員会の招集をし、クラス単位のアンケートを実施したり、生徒からの聞き取りなどの早期対応で未然に防止できた事案があった。ただ、残念なことは最終のアンケートが新型コロナウイルスの感染防止の休校により実施できなかったため、来年度はコロナの収束を待って年度初めの早い時期にアンケートを実施したい。
	・問題の緊急性に関する対応	激しい誹謗中傷、暴力など早急な対応が求められる事案に関しては、即いじめ防止対策委員会を招集し、対応を協議	A	
	・アンケート、スクールカウンセラーの活用	問題の全貌を知るためにアンケートやクレペリン等を実施したり、スクールカウンセラーとのカウンセリング活用で被害者、加害者共、心のケアにつとめる	A	
事務	・サービス部門と位置づけ、内部・外部に対しサービス精神をもって業務に取り組む	電話・来客対応を通して学校のイメージ向上の貢献 内外に対する親切で行き届いた対応	A	予算管理に基づき、支出の内容を見極め学校運営に支障がないよう事務処理に努めたい。
	・事務室と職員室との連携と相互協力	確実な情報伝達(ホウ・レン・ソウ)をモットーに、組織のスムーズな運営への寄与	A	
	・公的補助金の獲得の最大化	就学支援金・授業料軽減等の対象生徒の申請100%達成 補助金制度に精通し的確な申請にて取り落としを防ぐ	A	
	・予算管理における的確性	学園全体の制約の中で、十分に学校経営に於ける予算立案及び運用管理	B	
	・出納業務の標準化・効率化	校費・PTA・後援会・同窓会等の申請・出納・実績管理の標準化・効率化	A	
	・積立金管理についての個別対応と正確性	学科別・コース別・個人別と推移する中で、如何に効率化するか	A	

【評価基準】 目標の達成率 A:80%以上 B:60%~79% C:40%~59% D:40%未満